

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	国際情報工科自動車大学校
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
工業専門課程	1級自動車工学科(1年生)	夜・通信	15単位	13単位	
	1級自動車工学科(2,3,4年生)	夜・通信	477時間	320時間	
	自動車車体工学科(1年生)	夜・通信	15単位	10単位	
	自動車車体工学科(2,3年生)	夜・通信	351時間	240時間	
	2級自動車工学科(1年生)	夜・通信	15単位	7単位	
	2級自動車工学科(2年生)	夜・通信	324時間	160時間	
	情報システム工学科4年制(1年生)	夜・通信	14単位	13単位	
	情報システム工学科4年制(2,3,4年生)	夜・通信	360時間	320時間	
	情報システム工学科3年制(1年生)	夜・通信	11単位	10単位	
	情報システム工学科3年制(2,3年生)	夜・通信	345時間	240時間	
	情報システム工学科2年制(1年生)	夜・通信	9単位	7単位	
	情報システム工学科2年制(2年生)	夜・通信	300時間	160時間	
	情報システム科(1年生)	夜・通信	8単位	7単位	
	情報システム科(2年生)	夜・通信	189時間	160時間	
	ゲーム開発科4年制(1年生)	夜・通信	14単位	13単位	

工業専門課程	ゲーム開発科 4 年制 (2, 3, 4 年生)	夜・通信	375 時間	320 時間	
	ゲーム開発科 3 年制 (1 年生)	夜・通信	10 単位	10 単位	
	ゲーム開発科 3 年制 (2, 4 年生)	夜・通信	240 時間	240 時間	
	建築デザイン科 (1 年生)	夜・通信	8 単位	7 単位	
	建築デザイン科 (2 年生)	夜・通信	180 時間	160 時間	
	電気電子工学科 (1 年生)	夜・通信	12 単位	7 単位	
	電気電子工学科 (2 年生)	夜・通信	684 時間	160 時間	
	電気工事士科 (1 年生)	夜・通信	6 単位	4 単位	
	放射線工学科 (1 年生)	夜・通信	8 単位	7 単位	
	放射線工学科 (2 年生)	夜・通信	276 時間	160 時間	
	ドローンスペシャリスト科 (1 年生)	夜・通信	12 単位	7 単位	
	ドローンスペシャリスト科 (2 年生)	夜・通信	204 時間	160 時間	
	AI ゲーム・情報大学科 デジタル情報専攻 (1 年生)	夜・通信	14 単位	13 単位	
	情報ゲーム・大学科 高度情報専攻 (2 年生)	夜・通信	540 時間	320 時間	
	AI ゲーム・情報大学科 ゲーム開発専攻 (1 年生)	夜・通信	14 単位	13 単位	
	情報ゲーム・大学科 ゲーム開発専攻 (2 年生)	夜・通信	360 時間	320 時間	
	e モビリティ科 (2 年生)	夜・通信	300 時間	160 時間	
	(備考)「実務経験のある教員等による授業科目の 2 年生の単位数」は授業時数を用いている				

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://fsg-college.jp/jyohoukougai-wiz.html>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	国際情報工科自動車大学校
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-wiz.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2025 年 6 月 10 日～ 2027 年度定時評議員 会終結の時	政策的観点
非常勤	団体職員	2025 年 6 月 10 日～ 2027 年度定時評議員 会終結の時	教育統括的視点
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	国際情報工科自動車大学校
設置者名	学校法人国際総合学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
授業計画書の公表方法	https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-wiz.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し100点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価はA(100点～80点：優)、B(79点～70点：良)、C(69点～60点：可)、D(59点～：不可)の4段階評価とする。A、B、C評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価においては、客観的指標を設定するために、授業科目ごとの成績評価を100点満点に換算した上で取得点数の平均を求める仕組みを導入している。 各学生の平均得点と相対順位を把握する成績評価方法は以下の通りである。 ・学科単位を基本として全学生が履修した科目の総得点から平均を求め、「成績一覧表」により学年毎の順位を求める。 ・学生の平均得点と相対順位をもとにした「得点分布表」により、学科学年ごとの成績の分布状況を把握する。 この成績評価方法は半期ごとの集計も可能な方法となっており、「前期」、「後期」、「通年」の成績分布が把握可能な方法である。 成績評価の実施については、これらの成績評価の方法により学科学年ごとに実施しており、客観的指標の設定については下記HPにて公開されている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-wiz.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業に必要な条件については、 ・各学科の必修単位の取得 科目出席率80%以上（自動車系学科95%以上）科目C評価以上で単位取得 ・各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年2月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-wiz.html

様式第2号の4－②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4－①を用いること。

学校名	国際情報工科自動車大学校
設置者名	学校法人国際総合学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-wiz.html
収支計算書又は損益計算書	https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-wiz.html
財産目録	https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-wiz.html
事業報告書	https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-wiz.html
監事による監査報告（書）	https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-wiz.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	1 級自動車工学科				○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
4 年	昼間	157 単位	62 単位	20 単位	75 単位	0 単位	0 単位	
			157 単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人		82 人	0 人	3 人	0 人	3 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。
成績評価の基準・方法
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。
卒業・進級の認定基準
（概要） - 各学科の必修単位の取得 - 科目出席率 80%以上（自動車系学科 95%以上）科目 C 評価以上で単位取得 - 各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年 2 月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HP のみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。
学修支援等
（概要） - クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 - 学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 - 業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。 - 企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23 人 (100%)	0 人 (0%)	23 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 自動車ディーラー、民間整備工場			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 1 級自動車整備士、二級 2 輪自動車整備士、低圧電気取扱業務特別教育、中古自動車査定士、ガス溶接技能講習、アーク溶接業務特別教育			
（備考）（任意記載事項） 1 年：2 級自動車工学科から転科 2 名（2 名増） 2 年：自動車車体工学科から転科 2 名（2 名増）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
81 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	自動車車体工学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	121 単位	48 単位	16 単位	57 単位	0 単位	0 単位
			121 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
45 人		36 人	0 人	2 人	0 人	2 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） - 各学科の必修単位の取得 - 科目出席率 80%以上（自動車系学科 95%以上）科目 C 評価以上で単位取得 - 各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年 2 月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HP のみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） - クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 - 学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 - 業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。 - 企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9 人 (100%)	0 人 (0%)	9 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 自動車ディーラー、民間整備工場、钣金・塗装工場			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級自動車整備士、二級 2 輪自動車整備士、中古自動車査定士、有機溶剤取扱主任者技能講習、ガス溶接技能講習、アーク溶接業務特別教育			
（備考）（任意記載事項） 1 年：2 級自動車工学科から転科 1 名（1 名増） 2 年：1 級自動車工学科へ転科 2 名（2 名減）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32 人	1 人	3.1%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	2 級自動車工学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	83 単位	34 単位	14 単位	35 単位	0 単位	0 単位
			83 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50 人		44 人	0 人	4 人	0 人	4 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。
成績評価の基準・方法
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。
卒業・進級の認定基準
（概要） - 各学科の必修単位の取得 - 科目出席率 80%以上（自動車系学科 95%以上）科目 C 評価以上で単位取得 - 各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年 2 月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HP のみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。
学修支援等
（概要） - クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 - 学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 - 業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。 - 企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 自動車ディーラー、民間整備工場			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級自動車整備士、中古自動車査定士、ガス溶接技能講習、アーク溶接業務特別教育			
（備考）（任意記載事項） 1 年：自動車車体工学科へ 1 名、1 級自動車工学科へ 2 名（3 名減）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36 人	2 人	5.6%
（中途退学の主な理由） 精神的な問題		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム工学科 4 年制		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	164 単位	22 単位	100 単位	42 単位	0 単位	0 単位
			164 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		69 人	0 人	1 人	9 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。
成績評価の基準・方法
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し100点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価はA（100点～80点：優）、B（79点～70点：良）、C（69点～60点：可）、D（59点～：不可）の4段階評価とする。A、B、C評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。
卒業・進級の認定基準
（概要） - 各学科の必修単位の取得 科目出席率80%以上（自動車系学科95%以上）科目C評価以上で単位取得 - 各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年2月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。
学修支援等
（概要） - クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 - 学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 - 業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。 - 企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25 人 (100%)	0 人 (0%)	24 人 (96.0%)	1 人 (4.0%)
（主な就職、業界等） システムエンジニア、アプリケーションエンジニア、テクニカルエンジニア			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 情報処理安全確保支援士、データスペシャリスト、応用情報技術者試験 ネットワークスペシャリスト			
（備考）（任意記載事項） 1 年：情報システム工学科 3 年制から転科 5 名（5 名増） 2 年：情報システム工学科 3 年制から転科 1 名（1 名増）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
75 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム工学科 3 年制	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	121 単位	20 単位	70 単位	31 単位	0 単位	0 単位
			121 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		77 人	10 人	2 人	9 人	11 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し100点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価はA（100点～80点：優）、B（79点～70点：良）、C（69点～60点：可）、D（59点～：不可）の4段階評価とする。A、B、C評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） - 各学科の必修単位の取得 - 科目出席率80%以上（自動車系学科95%以上）科目C評価以上で単位取得 - 各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年2月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） - クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 - 学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 - 業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。 - 企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
24 人 (100%)	0 人 (0%)	23 人 (95.8%)	1 人 (4.2%)
（主な就職、業界等） システムエンジニア、ネットワークエンジニア、Web エンジニア、プログラマ			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験			
（備考）（任意記載事項） 1 年：情報システム工学科 2 年制から転科 3 名、4 年制へ転科 5 名、休学 1（3 名減） 2 年：情報システム工学科 4 年制へ転科（1 名減）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
86 人	2 人	2.3%
（中途退学の主な理由） 精神的な問題		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム工学科 2 年制	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	86 単位	20 単位	52 単位	14 単位	0 単位	0 単位
			86 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		9 人	0 人	1 人	9 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し100点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価はA（100点～80点：優）、B（79点～70点：良）、C（69点～60点：可）、D（59点～：不可）の4段階評価とする。A、B、C評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） - 各学科の必修単位の取得 - 科目出席率80%以上（自動車系学科95%以上）科目C評価以上で単位取得 - 各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年2月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） - クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 - 学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 - 業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。 - 企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
4 人 (100%)	0 人 (0%)	4 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） プログラマ、テストエンジニア			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 情報セキュリティマネジメント試験、情報処理技術者能力認定試験			
（備考）（任意記載事項） 1 年：情報システム工学科 3 年制へ転科 3 名（3 名減）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10 人	1 人	10.0%
（中途退学の主な理由） 精神的な問題		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	75 単位	12 単位	40 単位	23 単位	0 単位	0 単位
			75 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		8 人	0 人	1 人	9 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。
成績評価の基準・方法
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。
卒業・進級の認定基準
（概要） - 各学科の必修単位の取得 - 科目出席率 80%以上（自動車系学科 95%以上）科目 C 評価以上で単位取得 - 各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年 2 月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HP のみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。
学修支援等
（概要） - クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 - 学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 - 業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。 - 企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5 人 (100%)	0 人 (0%)	5 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） IT 事務、カスタマエンジニア、CAD オペレーター			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） MicrosoftOfficeSpecialist、Web クリエイター検定、ビジネス能力検定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ゲーム開発科 4 年制		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	151 単位	30 単位	4 単位	117 単位	0 単位	0 単位
			151 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		42 人	0 人	1 人	5 人	6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。
成績評価の基準・方法
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。
卒業・進級の認定基準
（概要） - 各学科の必修単位の取得 科目出席率 80%以上（自動車系学科 95%以上）科目 C 評価以上で単位取得 - 各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年 2 月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HP のみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。
学修支援等
（概要） - クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 - 学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 - 業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。 - 企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項） 令和 5 年度新設学科のため卒業生なし 1 年：ゲーム開発科 3 年制から転科 2 名（2 名増） 2 年：ゲーム開発科 3 年制から転科 1 名（1 名増）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ゲーム開発科 3 年制	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	117 単位	30 単位	4 単位	83 単位	0 単位	0 単位
			117 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		28 人	1 人	1 人	5 人	6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） - 各学科の必修単位の取得 - 科目出席率 80%以上（自動車系学科 95%以上）科目 C 評価以上で単位取得 - 各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年 2 月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HP のみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） - クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 - 学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 - 業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。 - 企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12 人 (100%)	0 人 (0%)	11 人 (91.7%)	1 人 (8.3%)
（主な就職、業界等） ゲームプログラマー、ゲームプランナー、ゲームクリエイター			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） C 言語プログラミング能力認定試験、情報処理技術者能力認定試験 ビジネス著作権検定			
（備考）（任意記載事項） 1 年：ゲーム開発科 4 年制へ転科 2 名（2 名減） 2 年：ゲーム開発科 4 年制へ転科 1 名（1 名減）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39 人	2 人	5.1%
（中途退学の主な理由） 精神的な問題、進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	建築デザイン科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	83 単位	42 単位	5 単位	36 単位	0 単位	0 単位
			83 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50 人		33 人	0 人	2 人	10 人	12 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） - 各学科の必修単位の取得 - 科目出席率 80%以上（自動車系学科 95%以上）科目 C 評価以上で単位取得 - 各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年 2 月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HP のみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） - クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 - 学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 - 業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。 - 企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21 人 (100%)	7 人 (33.3%)	14 人 (66.7%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 設計事務所、建設会社、工務店、ハウスメーカー			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 2 級建築施工管理技術検定試験、建築 CAD 検定 2 級、宅地建物取引士資格試験			
（備考）（任意記載事項） 1 年：休学 1 名（1 名減）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電気電子工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	89 単位	50 単位	0 単位	39 単位	0 単位	0 単位
			89 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		18 人	0 人	1 人	3 人	4 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） - 各学科の必修単位の取得 - 科目出席率 80%以上（自動車系学科 95%以上）科目 C 評価以上で単位取得 - 各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年 2 月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HP のみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） - クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 - 学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 - 業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。 - 企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9 人 (100%)	0 人 (0%)	9 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 電気工事業、電気通信工事業、消防施設工事業			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 第1種電気工事士、2級電気工事施工管理技術検定、工事担任者			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電気工事士科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼間	56 単位	34 単位	0 単位	22 単位	0 単位	0 単位
			56 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10 人		0 人	0 人	1 人	3 人	4 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） - 各学科の必修単位の取得 - 科目出席率 80%以上（自動車系学科 95%以上）科目 C 評価以上で単位取得 - 各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年 2 月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HP のみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） - クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 - 学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 - 業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。 - 企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	放射線工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	93 単位	78 単位	0 単位	11 単位	4 単位	0 単位
			93 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		15 人	1 人	1 人	2 人	3 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） - 各学科の必修単位の取得 - 科目出席率 80%以上（自動車系学科 95%以上）科目 C 評価以上で単位取得 - 各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年 2 月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HP のみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） - クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 - 学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 - 業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。 - 企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9 人 (100%)	0 人 (0%)	8 人 (88.9%)	1 人 (11.1%)
（主な就職、業界等） 原子力業界、放射線管理、環境モニタリング			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 第一種放射線取扱主任者、第二種放射線取扱主任者、エックス線作業主任者			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ドローン スペシャリスト科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	80 単位	30 単位	26 単位	24 単位	0 単位	0 単位
			80 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		10 人	0 人	1 人	3 人	4 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） - 各学科の必修単位の取得 - 科目出席率 80%以上（自動車系学科 95%以上）科目 C 評価以上で単位取得 - 各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年 2 月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HP のみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） - クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 - 学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 - 業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。 - 企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
7 人 (100%)	0 人 (0%)	7 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） ドローンパイロット、ドローンエンジニア、ドローンインストラクター			
（就職指導内容） 就職研修の開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 1 等無人航空機操縦士、2 等無人航空機操縦士、第 3 級陸上特殊無線			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	AI ゲーム・情報大学科 デジタル情報専攻				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	169 単位	83 単位	48 単位	38 単位	0 単位	0 単位
			169 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		5 人	0 人	1 人	5 人	6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。
成績評価の基準・方法
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。
卒業・進級の認定基準
（概要） - 各学科の必修単位の取得 - 科目出席率 80%以上（自動車系学科 95%以上）科目 C 評価以上で単位取得 - 各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年 2 月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HP のみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。
学修支援等
（概要） - クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 - 学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 - 業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。 - 企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項） 令和 7 年度新設学科のため卒業生なし			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	AI ゲーム・情報大学科 ゲーム開発専攻				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	142 単位	70 単位	0 単位	72 単位	0 単位	0 単位
			142 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		0 人	0 人	1 人	2 人	3 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） - 各学科の必修単位の取得 - 科目出席率 80%以上（自動車系学科 95%以上）科目 C 評価以上で単位取得 - 各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年 2 月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HP のみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） - クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 - 学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 - 業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。 - 企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項） 令和 7 年度新設学科のため卒業生なし			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	e モビリティ科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1,706 単位時間	665 時間	777 時間	264 時間	0 時間	0 時間
			1,706 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10 人		2 人	0 人	1 人	0 人	1 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業計画の作成については学科担当者、学科長、教務部長などにより構成される学内検討委員会において検討、決定している。 毎年 2 月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布。3 月には授業科目ごとの内容を検討評価委員会で確認し決定している。学生に対しての公表は 4 月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布し説明を実施。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 学習成果の評価については、各学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポートや制作物の提出状況などを点数分布し 100 点満点で評価している。 期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の 80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。成績評価は A（100 点～80 点：優）、B（79 点～70 点：良）、C（69 点～60 点：可）、D（59 点～：不可）の 4 段階評価とする。A、B、C 評価は合格として単位を認定し、D 評価の場合は不合格となり単位を喪失する。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） - 各学科の必修単位の取得 - 科目出席率 80%以上（自動車系学科 95%以上）科目 C 評価以上で単位取得 - 各学科の定める卒業基準検定の取得または卒業制作課題提出または養成課程修了すべてを満たす必要がある。 卒業の可否は毎年 2 月に実施する卒業判定会において、全学科の全科目について出席、期末試験、卒業基準の検定・コンペ・卒業制作課題提出の完成度を勘案して審議され決定する。 なお、卒業認定に関する規定については、HP のみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。	
学修支援等	
（概要） - クラス担任制による出欠管理、学業・生活面における相談体制の確立。 - 学業の進捗状況に応じたクラス別の国家試験対策授業。 - 業界最前線で活躍する業界人を招聘しての特別授業。 - 企業と連携して現場を体験するインターンシップの推進。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項） 令和 7 年度新設学科のため卒業生なし 令和 8 年度募集停止のため新入生なし、在籍は 2 年生 2 名のみ			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任制度の採用、学生との定期的な個別面談実施、新入生保護者対象説明会実施、進級生保護者面談会実施、スクールカウンセリング制度採用、退学後の進路確認面談。		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
1 級自動車工学科	150,000 円	760,000 円	180,000 円	その他は施設維持費
自動車車体工学科	150,000 円	760,000 円	180,000 円	その他は施設維持費
2 級自動車工学科	150,000 円	760,000 円	180,000 円	その他は施設維持費
情報システム工学科 4 年制	150,000 円	790,000 円	180,000 円	その他は施設維持費
情報システム工学科 3 年制	150,000 円	790,000 円	180,000 円	その他は施設維持費
情報システム工学科 2 年制	150,000 円	790,000 円	180,000 円	その他は施設維持費
情報システム科	150,000 円	790,000 円	180,000 円	その他は施設維持費
ゲーム開発科 4 年制	150,000 円	790,000 円	180,000 円	その他は施設維持費
ゲーム開発科 3 年制	150,000 円	790,000 円	180,000 円	その他は施設維持費
建築デザイン科	150,000 円	790,000 円	180,000 円	その他は施設維持費
電気電子工学科	150,000 円	790,000 円	180,000 円	その他は施設維持費
電気工事士科	150,000 円	790,000 円	180,000 円	その他は施設維持費
放射線工学科	150,000 円	790,000 円	180,000 円	その他は施設維持費
ドローンスペシャリス ト科	150,000 円	790,000 円	180,000 円	その他は施設維持費
AI ゲーム・情報大学 科	180,000 円	840,000 円	180,000 円	その他は施設維持費
e モビリティ科	150,000 円	730,000 円	160,000 円	その他は施設維持費
モバイルアプリケーション 科	50,000 円	350,000 円	540,000 円	その他は施設設備費及 び施設維持費
修学支援 (任意記載事項)				
【各種特待生制度】 受験する際に書類審査・面接試験の結果、ランク判定により 5 万円～最大 80 万円の免除 【進級時特待生制度】 2 年生、3 年生および 4 年生に進級する際、一定の条件を満たした者に対して 10 万円もしくは 5 万 円の免除				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-wiz.html		
第三者評価の基本方針（実施方法・体制）		
学校関係者評価については、文部科学省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースに、任意団体である全国専門学校経営研究会（加盟校：26 法人 113 校）により競技検討を重ねた「自己点検・評価基準」を主に、点検基準表を策定し、学校が委員会等の点検・評価を基に作成し、学校長が再点検の上、学校運営に反映させる方針とする。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人 福島県自動車整備振興会	2026. 4. 1～2027. 3. 31	公共団体委員
公益社団法人 福島県建築士会	2026. 4. 1～2027. 3. 31	業界団体委員
特定非営利活動法人 国際ゲーム開発者協会日本	2026. 4. 1～2027. 3. 31	業界団体委員
光栄電気通信工業株式会社	2026. 4. 1～2027. 3. 31	企業等委員
有限会社 山ノ井商事	2026. 4. 1～2027. 3. 31	企業等委員
福島大学 共生システム理工学類	2026. 4. 1～2027. 3. 31	教授
第三者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-wiz.html		
(備考)		
第三者評価委員会未実施（令和 9 年度実施予定）のため学校関係者評価委員会について記載。		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-wiz.html

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H107320381168
学校名（〇〇大学 等）	国際情報工科自動車大学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人国際総合学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		212人（66）人	202人（63）人	216人（70）人
内 訳	第Ⅰ区分	53人	53人	
	（うち多子世帯）	（－人）	（－人）	
	第Ⅱ区分	27人	36人	
	（うち多子世帯）	（－人）	（－人）	
	第Ⅲ区分	21人	18人	
	（うち多子世帯）	（－人）	（－人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	60人	47人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	19人	15人	
	区分外（多子世帯）	32人	33人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（0）人
合計（年間）				216人（70）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人		
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期	

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人		

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人		
GPA等が下位4分の1	0人		
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。